

平成2年3月号
(通巻番号 27号)
発行 桜木公民館
徳山市城ヶ丘2-4-21
Tel (0834) 28-5973

◆新刊本が入りました◆

- ・下天は夢か
- ・逆転の株作戦
- ・寝台特急「北斗星」殺人事件
- ・十津川警部の決断
- ・野の花三百六十五日
- ・血闘
- ・ホーキング、宇宙を語る
- ・ケネディ暗殺とUFO
- ・雲から贈る死
- ・ケント・デリカットの
だいじょうぶ! 英会話
- ・海軍こぼれ話
- ・大逆転! 戦艦「大和」激闘す
- ・読む人間ドック集
- ・頭の体操第9集
- ・妖魔淫獄
- ・修羅の狩人
- ・北京の星記
- ・新史太閤
- ・毛利元就のすべて
- ・ロマノフ王朝の秘宝(下)
- ・知らない凶運におそわれる
よい家相、悪い家相
- ・聖魔拳士
- ・千利休殺意の器
- ・人間魚雷回天
- ・フタチマ予言は何を告げたか?!
- ・千昌夫驚異の蓄財術
- ・グリーンライン
- ・ラバウル烈風空戦録 初陣編
- ・" 進撃編
- ・" 雄飛編
- ・人麻呂の暗号機
- ・人斬り剣奥儀
- ・半分の過去
- ・剣客商売
- ・" 天魔沈女
- ・" 浮城
- ・城と斬る
- ・流れるを斬る
- ・耶馬台国はやっぱりここだった
- ・スラバヤ沖の血戦
- ・叱咤方の上手い親下手な親
- ・頭のいい保険利用法
- ・黒豹伝説
- ・モサド、その真実
- ・往きてまた還らず
- ・デタラメ警察は止まらない
- ・知ってびっくりなるほど
- ・THE 雑学 BOOK
- ・聖なる死の塔
- ・万葉集

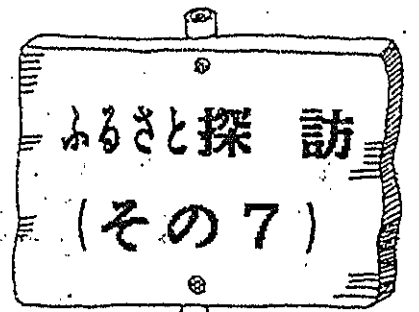
- ・からす 組逆
- ・反鏡
- ・Dの鏡
- ・ゼイキン息災学
- ・花の棺百人一首殺人事件
- ・臓器移植はなぜ必要か
- ・確かな生き方を求めて
- ・紐長の女
- ・京都潜水坂殺人事件
- ・百年目の同窓会
- ・私の赤い手帳から
- ・知らない恥をかか! マナ
- ・およばれ
- ・裸足の皇女
- ・も一つの万葉集
- ・昭和思い出し笑
- ・鬼の面・御宿かわせ
- ・緑の底の底音
- ・霧の証
- ・白河夜船
- ・お母さんは宇宙人
- ・明日は今日より素晴らしい
- ・邪馬台国が見える!
- ・味つけ上手! 秘密の下ごしらえ
- ・英会話をあっさりモノにする本
- ・日本合戦史 100話
- ・四季抄風の旅誌
- ・捜査一課の犯罪日本史
- ・おもしろ雑学日本史
- ・紙細工の花嫁
- ・東洋医学養生法
- ・時代を読む
- ・NHK妻と夫の実年時
- ・悪女は午前二時に眠る
- ・プロ野球天國・地獄のウラ勝負
- ・極道狩り
- ・剣客商売 陽炎の男
- ・銀河鉄道の夜



春の「老人ふれあいの集い」!
桜木地区社会福祉協議会主催(第四回)
三月十五日、地区の民生委員・栄養改善推進員・老人クラブ婦人部・地区婦人会・友愛訪問員等々多勢の方々の協力助成を得て独り暮らしの老人を招待し、ほのぼのとした「春のふれあいの集い」が行われました。

集いには、今年も「小さき花幼稚園」から可愛い園児の訪問を受け、合唱・唄あそび・お話あひなど、文字通りの暖かい嬉しいふれあいの集いでした。
園児から一人一人のご老人にメッセージが渡されたりして遊びが続けられ、中には涙ぐまれるご老人もあり楽しい一日でした。





この探訪記は、城北秀会の黒坂政雄氏の寄稿によるもので、平成元年7月(その1)からの「続き記事」です。

はじめに

ふるさと探訪その四で「馬屋集落の起源」が始まり、その五・その六と継続して来ましたが、その六(平成元年7月号)では、四節として、「馬屋の御田頭幸(三つとぎ)」のことについて探訪しました。この三月号の「その七」は、その六からの直接に続くものであり、御田頭幸の行列順序、道順、歴史の中の経緯等で締めくくっております。

◆行列は次のような順序で出発した。

①・幟、各色の幟は子供たちが持つて先頭を歩いた。 つづいて

②・太鼓、③・潮汲み、④・賽銭入れ(大ぞうけ)、⑤・金の御幣、

⑥神輿、⑦・神官、の順序で進んだ。御田頭幸は夏の暑い日に行われ、更に歩く距離も長かったので、神官は馬に乗ってもらうことが多かった。

それも戦争が激化した昭和十七八年頃までで、馬が軍の徴用で居なくなり神官の乗馬は無なくなりました。

◆白紙の御幣と櫛を持った者は、裏の浴田の御はらいを済ませて御旅所で合流し、また次の御はらいに行く。世話人は御田頭幸には参加せず、御旅所の後片付けや行列が帰って来てからの打ち上げの準備をするのに忙しかった。

◆御田頭幸の道順は、別紙の地図で示したように、※ ↓。

※別紙地図はスペースの関係で別紙として掲載出来ませんことをお詫び致します。ふるさと探訪記の全部を編集替えるときには掲載する予定です。

(編集者、公民館)

↓。下馬屋の権現様を出発し下馬屋を一巡し、山原大吉氏の御旅所で一休みして上馬屋に行き、河内社跡の御旅所で再度一休みする。帰りは来た道を下り、途中、福谷弥助氏宅前から真直に南下して権現様まで帰って来たのである。

◆馬屋の御田頭幸は、前記のように、明治三十一年から始まり昭和二十一年まで続けられた。その間昭和十四年には大旱魃があり中止されている。その後、御田頭幸は昭和二十八年に再び復活したが昭和三十一年を最後に止絶えてしまったのである。

それは、時の流れ、若者の流出・思想の変化等々が考えられるが、然しこのような行事、習慣の消滅は古い人間にとっては寂しい思いを深くするものである。

◆最後に、御田頭幸の神事は、江戸時代から各地で行われていたのだが、上馬屋河内社の御田頭幸には調査の手が廻らず、不明のままなのが残念であり、今後の課題である。

尚、「下馬屋の土落し(ごまごま)行事は、昭和四十四年を最後に次年から中止されている。」

◆おわり◆

この度の、「ふるさと探訪」(その一)「その七」を今回で終了致します。寄稿された黒坂先生からの次の探訪記を皆さんと共に楽しみにしています。(公民館)

平成2年 第4号

【桜木地区】

ふるさと創生だより

◆水脈の探索を何度か行い、ボーリングの段取り等も検討協議を重ねましたが、工事資材運搬の困難性、予算上の問題等々難点が多く、結局この方策は断念し、発想を変えた戦略を立て、水問題と資材搬入及び工事作業方法等を一気に解決の方法の第3次計画の協議を終えたところですが、若干遅れていますが今後の進展に引き続きご支援ご協力をお願い致します。
◆3月20日以後、逐次自治会に花の苗をお届けしていますが、4月以降の見事な開花を楽しみに。(開花以後の管理方法については、折々に公民館から通知します)

見つけたゾ！ 徳山市1番地

【おの山の中間にあり】

●ふるさと創生で、とおの山のジャングルを這い廻り乍ら公私有林境界調べの最中に見。位置はおの山の中間で標高239.5メートルの地点。
●ふるさと桜木地区に「大字良1番地」を発見し、縁起を重んじて委員は喜んで

【桜木小学校】 ☆新入学の1年生 ☆ 入学式=4月10日(火)



今年・入学するピカピカの児童は、男子47名・女子56名 計103名 ※(人数は、3月7日現在の把握数)

祝。ご入学

ふるさと探訪

◆この度の「ふるさと探訪」その一からその七まで「を原稿にするに当りまして、関係する調査について、郷土史家、神本正律先生の暖かいご指導によるところが多く、誠に感謝に耐えませんが、また、城ヶ丘一丁目、山原恒穂氏にも、資料集め、古老との話し合い等々、大変お世話になりました。

その他多勢の方々から、昔のことを色々とお教示を頂いたことについて心から厚く御礼を申し上げます。

◆昨年来、「ふるさと探訪」をご愛読下さいまして有難うございました。(編集者 桜木公民館)

黒坂先生の綿密にして精力的な調査によって、今では昔話となった郷土の史跡・風土史話等の一端を知ることが出来て、深い感慨を覚えられた方も多かったことと思えます。桜木地区では、目下、ふるさと創生事業の一つに、「とおの山開発整備」を進めています。この「とおの山」を中心として、上・下馬屋、平原、或るいは城ヶ丘一丁目付近にも昔を知るよすがとなるものが数多くありこの探訪記を参考にして散策されることをお勧め致します。ともあれ、執筆寄稿の黒坂先生に改めて厚く御礼を申し上げます。(編集者 桜木公民館)